

報告

〈柿崎会員〉

日本学術会議第一五期会員の推薦等に関するアンケート調査結果について

① 学術会議会員の推薦については、日本社会学推薦の候補者三名を応援し、本研究会としては、独自の候補者を推薦しないという回答が多数を占めた。

② 会員推薦にあたる推薦人および推薦人予備者については、推薦人柿崎会員、推薦人予備者安原会員でよいという回答が多数を占めた。

〈事務局〉

一九九一年度大会共通課題設定等に関するアンケート結果について

① 回収率三割弱（九五名）。

② 「共通課題に関する提案」において多い回答は、「国際比較」、「環境問題」、「イエ・ムラ論の現代的総括」、「ナショナル・トラスト運動、リゾート、担い手、村おこし等」の順であった。

③ 「村研の運営全般に関する意見」において多い回答は、「運営委員の若返り、若手の活躍」、「大会の持ち方」、「研究会の持ち方」、「『研究通信』の工夫」の順であった。

審議

一九九一年度大会共通課題について

アンケート結果をもとに議論したが、結論が出なかった。とりあえず「日本農業・農村の現代的意義を求めて」という緩やかな課題のもと、地区における検討、研究会をふまえ再度、次

一九九一年度 第二回運営委員会記録

日時 一九九一年二月九日 一六時三〇分～一八時

場所 中央大学駿河台記念館

出席者

柿崎京一、高橋明善、大須真治、相川良彦、東 敏雄、  
松田苑子、岩本由輝、磯辺俊彦、高山隆三、河村能夫、  
渡辺 正、吉沢四郎、松本通晴、庄司俊作

回の運営委員会で検討する。

二 「研究通信」の書評欄の新設について

「研究通信」誌面改善の一環として、書評欄を新設する。会員の新刊著書について、会員から、原稿用紙六枚（四百字）前後で書評を募る。著書はとりあえず一九九〇年以降出版のものに限り、当面運営委員の協力を得て事務局で扱う。

三 宿題委員会の選出について

大会共通課題の決定をふまえ、選出する。

四 次回運営委員会について

五月一八日(土) 一三時三〇分より開催。